

最優秀 LOM 平和プロジェクト
Best Local Peace Project

LOM 名

公益社団法人東京青年会議所

申請担当者名

田中 尚幸

基本情報

事業名

東京 JC2020 パートナーシップ

Basic Information

Name

Diversity and Partnership for Peace

目的

- ◎ コミュニティおよび市民に対して
 - 地域社会から、外国人や異なるバックグラウンドを持つ人々への偏見、人種差別をなくす。日本人と外国人とが共生、共存する地域を創り出すこと
 - 上記の目的のために、地域において、日本人と外国人とが交流を超えて“協働”するプロジェクトを実施すること（“協働”によって、相互理解が深めるだけでなく、互いに協力するメリットが実感できるよう工夫されていることが重要）
 - 地域社会における活動やプロジェクト（最初は、上記のとおり、外国人と日本人とが交流、協働するプロジェクト）に、大学生を参加するよう誘導すること（彼らに社会課題を解決する機会、成長発展の機会を提供すること）
 - 国をこえて、グローバルに活躍する人財を地域社会から作り出すこと（大学生が地域社会において、日本人と外国人とが交流、協働するプロジェクトに主体的にかかわること）
- ◎ JCI メンバーおよび LOM に対して
 - 最近の日本、東京では、「人種や国籍に基づく偏見や差別」が大きな課題となっている。この地域にとって重要な会問題に解決する機会を JCI メンバーに提供すること
 - グローバルとローカルという 2 つの視点を同時にもつプロジェクトを経験すること（JCI メンバーは、このプロジェクトを通じて、さまざまな国の大使館や団体の人々とやりとりし、グローバルな視点をもつ。JCI メンバーは、地域社会に、さまざまな国の人達をつなぎ、そして、地域に住む人々にこれらの人と協働するよう働きかける）
 - JCI 東京の活動エリアである東京において、これから行われる世界最大のイベント（東京オリンピックパラリンピック）の主催者とパートナーシップを築き、JCI 東京と主催者がこのプロジェクトを推進することで、市民に対する JCI 東京の認知度、ブランディングを高める

Purpose

- ◎ To the community and citizens
 - Eliminate prejudice and racial discrimination from the local community towards foreigners and people with different backgrounds. Creating an area where Japanese and foreigners coexist
 - For the above-mentioned purpose, to implement a project in which “Japanese” and “non-Japanese” collaborate with each other in the region, beyond mutual exchanges (“collaboration” not only deepens mutual understanding, but also cooperates with each other. It is important that you devise so that you can realize the benefits.)
 - Invite university students to participate in activities and projects in the local community. Firstly, as mentioned above, projects in which foreigners and Japanese interact and collaborate, and opportunities for them to solve social issues, growth Providing opportunities for development
 - To train people to be talents who can play an active role globally, across countries (from university students being actively involved in projects where Japanese and foreigners interact and collaborate in the community)
- ◎ For JCI members and LOM
 - In recent years in Japan and Tokyo, “prejudice and discrimination based on race and nationality” has become a major issue. To provide JCI members with an opportunity to resolve meeting issues that are important to the region
 - Experience a project that has two perspectives, global and local at the same time (JCI members interact with embassies and organizations in various countries through this project and have a global perspective. Engage society with people from different countries and encourage people in the area to work with them.)
 - By building a partnership with the organizer of the world's largest event, Olympic Paralympic Games that will take place in Tokyo, which is the activity area of JCI Tokyo, and by promoting this project by JCI Tokyo and the organizer, Increase awareness and branding

開始日※日付で記載

2019/5/3

終了日※日付で記載

2020/3/31

事業対象者

地域社会、大学生、駐日各国大使館、JCI メンバー

Start date

JCI ウェブフォームは、カレンダーから選択方式なので記載不要。

End date

JCI ウェブフォームは、カレンダーから選択方式なので記載不要。

Target

Local communities, university students, embassies, JCI members

SDGs の該当項目

該当項目を 1 つのみ選択

Sd goal

発展段階

Active Citizen Framework「展開」の項目での3項目の発展段階から選択 ①健康な身体と精神 ②教育と経済力強化 ③平和・繁栄・持続可能性

概要

◎ 背景

- 政府の入管法や政策の変更により、日本に住む外国人は増加している。とくにこれまでと異なり、ベトナム、カンボジア、ミャンマー、モンゴル、ネパール、スリランカなどの国からくる就労者や留学生が増えている。それらの外国人がもっとも多く住むのが東京である（なお、日本人の人口は減少している）。

- しかし、ある調査では、在住外国人のうち約49%が「日本人から外国人への偏見や差別を感じた経験がある」と回答している。特に、一部では、特定の国の人々を排斥する差別的言動、ヘイトスピーチが大きな社会問題となっている。行政の調査では、日本に住む外国人は、約82%が日本人と日常的な交流がなく、また外国人は、外国人コミュニティ内だけで活動していることが多い。

- 島国である日本は、地域社会の多くの人が英語を苦手とし、外国人とのコミュニケーションに抵抗を感じている。地域社会において、外国人と日本人が交流、協働する機会も少ない。

- 東京オリンピックパラリンピック大会が間近に迫っている（2020年開催予定であったが、2021年に延期された）。日本人は、オリンピックへの関心、興味が高い。JCI東京のプロジェクトは、この市民のオリンピックへの高い関心、興味をエンジンにしようと思図している。

また、各国は、このオリンピックの機会を活かして、在日大使館やNOC（ナショナルオリンピックコミッティー）を通して、自分の国や商品・サービスをPRしようとしている。地域社会も、オリンピックをきっかけに、外国、外国人に関心をもつチャンスである。上記課題（差別や偏見など）を解決するチャンスである。

- 東京に住む大学生は、大半が、地域社会にかかわっていない（若者の地域社会離れが進んでいることに加え、首都である東京に住む大学生は、地方から単身で出てきていることも多い）。これらの大学生は、オリンピックに強い関心を持っているうえ、英語でのコミュニケーションができる者も多く、このプロジェクトの1つのカギになる存在である。

◎ プロジェクト

JCI東京は、「東京JC2020パートナーシップ」という名前で、東京オリンピックパラリンピックの準備・実施団体（東京都オリンピックパラリンピック準備局、東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会）の協力もえて、以下のような一連のプログラムを行った。

[1] 23パートナーシップ

- 東京は、23区に分かれている。JCI東京は、23区の地域団体と23の国とをマッチングした。そのマッチングは、オリンピックに向けて、自分の国や商品・サービスをPRしたい大使館と、オリンピックにちなんだ国際的なイベント・企画を行うことで地域を活性化したい地域団体とをつなげるものである。JCI東京の23の委員会が、大使館や地域団体を訪問し、その橋渡しをした。

[2] パートナーハウスコンテスト

- パートナーハウス（ナショナルハウス、オリンピックハウスという言い方もある）は、オリンピック時に、開催都市において、各国が設置するPRや交流の施設である。しかしながら、東京は、土地が狭く、地価も高い。そのため、パートナーハウスを設置できるのは、資

Peace, Justice and Strong Institutions

Development stage

"Health and Wellness"・"Education and Economic Empowerment"・"Peace, Prosperity, and Sustainability"から選択

Peace, Prosperity, and Sustainability

Overview

◎ Background

-The number of foreigners living in Japan is increasing due to changes in immigration laws and policies. Especially, unlike before, the number of working people and international students from countries such as Vietnam, Cambodia, Myanmar, Mongolia, Nepal and Sri Lanka is increasing. Most of these foreigners live in Tokyo while the population of the Japanese is decreasing.

-However, according to a survey, about 49% of foreigners living in Japan answered that they have experienced bias and discrimination from Japanese to foreigners. In particular, in some cases, hate speech and discriminatory behavior that exclude people in certain countries have become a major social problem. According to a government survey, about 82% of foreigners living in Japan have no daily interaction with Japanese, and foreigners often work only within the foreign community.

-In Japan, which is an island country, many people in the local community are not good at English, and feel resistance to communication with foreigners. There are few opportunities for foreigners and Japanese to interact and collaborate in the local community.

-The Tokyo Olympic Paralympic Games are imminent (scheduled to be held in 2020, but postponed to 2021). Japanese are very interested in the Olympics. The project of JCI Tokyo intends to use this citizen's high interest and interest in the Olympics as an engine.

In addition, each country is taking advantage of this Olympic opportunity to publicize its own country, products and services through the Embassy of Japan in Japan and the National Olympic Committee ("NOC"). It is also an opportunity for local communities to become interested in foreigners and foreigners after the Olympics. This is an opportunity to resolve the above issues (discrimination, prejudice, etc.).

-Most of the university students living in Tokyo are not involved in the local community. These university students have a strong interest in the Olympics, and many of them have the ability to communicate in English, which is one of the keys to this project.

◎ Project

JCI Tokyo, under the name " Diversity and Partnership for Peace," is a series of programs with the cooperation of the Tokyo Olympic Paralympic preparatory / implementing organizations (Tokyo Olympic Paralympic Preparation Bureau, Tokyo Olympic Paralympic Games Organizing Committee).

[1] 23 partnerships

-Tokyo is divided into 23 wards. JCI Tokyo matched the regional groups in the 23 wards with 23 countries. The matching connects the embassies who want to publicize their own country and products / services toward the Olympic Games, and the regional organizations who want to revitalize the area by conducting international events and projects related to the

金力がある一部の大国のみである。一部の大国以外は、自分の国を PR したり交流したりするパートナーハウスを自らの力では作れない。

JCI 東京は、「23 区の地域団体が自分たちのエリアで外国と協力して作る、新しい形のパートナーハウス（東京 JC2020 パートナーハウス）」というコンセプトで、そのアイデアを募集するコンテストを行った。

[3] 万国フェス 2019 開催

- 上記 [1] の国をふくめ 27 の国の大使館や団体、22 の地域団体や企業にそれぞれブースを出店してもらい、フェスティバルを開催。約 1 万人の市民が訪れた。JCI 東京は、このイベントで、「東京 JC2020 パートナーシップ」の周知や、上記 [2] のコンテストの投票なども行った。このイベントを通じて、9 つの企業から 1 万 5000 ドルの協賛金を得た。オリンピックを準備する東京都の知事・小池百合子氏がスピーチし、多くの市民に向けて、JCI 東京の「東京 JC2020 パートナーシップ」プロジェクトをもっと推進してほしいと述べた。

- プロジェクトのサイトは、のべ 3 万 4000 人以上の閲覧があった。

[4] 東京 JC2020-大学生地域ワークショップ①

- 建築学科で学ぶ大学生たち 30 人が東京 JC2020 パートナーハウス（上記 [2] のとおりオリンピック時に、国と地域団体とで協力して作るもの）のアイデアを考えるワークショップを行った（ワークショップの期間 1 週間）。

- JCI 東京は、このワークショップを、日本大学建築学科と協力して実施した。大学生は、4 つのグループにわかれ、JCI 東京が上記 [1] でつながりをつかった地域団体や大使館にヒアリングを行った。大学生は、貴重なフィールドワークの機会を得た。それぞれのチームのアイデアは、建築士や大学教授のサポートを得ながら、模型やポスターに具現化された。その内容は、4 つの地域団体や大使館にフィードバックされた。

- これらの活動は、プロジェクトの専用サイトでも発信された。

[5] シェフデミッションセミナーでの PR

- 2019 年 8 月に、東京オリンピックパラリンピックの正式イベントとして、シェフデミッションセミナーが開催された。このセミナーは、オリンピックの主催団体がすべての参加国の NOC（National Olympic committee）・大使館向けに行う公式説明会である。

- このセミナーで、「東京 JC2020 パートナーシップ」の取り組みが各国に紹介、PR され、大学生たちが作った 4 つの地域団体・国のパートナーハウスの模型やポスターも展示された。その内容は、ブースにて、各国に PR された。

- この結果は、大学生、地域団体にもフィードバックされ、彼らをさらにモチベートした。これらの活動は、プロジェクトの専用サイトでも発信された。

[6] プレ・「東京 JC2020 パートナーハウス」

- JCI 東京は、上記 [2] と上記 [4] のアイデアをもとに、3 つの地域団体と国と協働して、オリンピック開催前に、プレ・「東京 JC2020 パートナーハウス」というプロジェクトを実施した。JCI 東京が実施した 3 つのハウスに、約 900 人の市民が参加した。

- 地域社会の人々が、その地域の活性化や沢山の市民がくることを動機に、1 つの国を紹介、PR する施設を設置し、複数日のイベントを開催した（3 つの地域がそれぞれブータン、モリシャス、ポーランドのことを大使館等と協力して紹介した）。大使館職員など日本に住むその国の人々は、オリンピックに向けて、自国や商品・サービスを PR することを動機に、地域社会の人々との協働に参加した。

- この機会に実際に協働した人々（地域社会の人々と、大使館職員等）は、プロジェクト以後も、自分たちで話し合い、別の交流・協働イベントをその地域で複数開催している。

- これらの活動は、「日本人と外国人とが一緒に準備、企画するイベントに大きな魅力やメリットがある」ことを伝えるものとして、プロジェクトの専用サイトでも発信された。

[7] 東京 JC2020-大学生地域ワークショップ②

Olympic Games. Twenty-three committees of JCI Tokyo visited and bridged the embassies and regional groups.

[2] Partner House Contest

-Partner houses (sometimes called national houses and Olympic houses) are public relations and exchange facilities set up by each country in the host city during the Olympics. However, the land in Tokyo is small and the land price is high. As a result, partner houses can only be set up in some large power countries. Except for some large countries, it is not possible to create a partner house that promotes or interacts with your own country.

JCI Tokyo held a contest for the idea based on the concept of "a new form of partner house (Tokyo JC2020 partner house), which is created by regional groups in the 23 wards in cooperation with foreign countries in their area".

[3] Universal Festival 2019 held

-The festival is held by having the embassies and groups of 27 countries, including the countries of [1] above, and 22 regional groups and companies open booths. About 10,000 citizens visited. At this event, JCI Tokyo also announced the "Tokyo JC2020 Partnership" and voted for the contest in [2] above. Through this event, nine companies donated \$ 15,000 in sponsorship. Yuriko Koike, Governor of Tokyo preparing for the Olympics, gave a speech to a large number of citizens and requested that JCI Tokyo's "Tokyo JC2020 Partnership" project be further promoted.

-The project site was viewed by more than 34,000 people in total.

[4] Tokyo JC2020-University Student Area Workshop ①

-30 university students studying in the Department of Architecture held a workshop to think about the idea of the Tokyo JC2020 Partner House (created in cooperation with the national and regional groups at the time of the Olympics as described in [2] above) (Workshop period) 1 week).

-JCI Tokyo conducted this workshop in cooperation with the Department of Architecture, Nihon University. The university students were divided into four groups and interviewed the regional groups and embassies that JCI Tokyo made the connection in [1] above. College students had a valuable fieldwork opportunity. The ideas of each team were embodied in models and posters with the support of architects and university professors. The contents were fed back to four regional organizations and embassies.

-These activities were also posted on the project's dedicated site.

[5] PR at the chef demission seminar

-In August 2019, the Chef Demission Seminar was held as an official event of the Tokyo Olympics Paralympics. This seminar is an official briefing held by the Olympic host organization for NOCs (National Olympic committees) and embassies in all participating countries.

-At this seminar, the initiatives of the "Tokyo JC2020 Partnership" were introduced to each country and publicized, and models and posters of four regional groups and national partner houses made by university students were also displayed. The contents were publicized in each country at the booth.

-These results were fed back to university students and community groups, further motivating them. These activities were also announced on the project's dedicated site.

- 東京都内のさまざまな大学の学生 40 人がオリンピック期間中に、「地域団体と 1 つの外国の国（大使館等）」とが協働するプロジェクトを考えるワークショップ・フィールドワークを行った（期間 3 カ月）。
- このワークショップは、上智大学の教授、デロイトトーマツベンチャーサポート株式会社に所属する地域活性化の専門家などの協力も得て行われた。
- 大学生は、3 つのチームに分かれ、地域団体や大使館等、オリンピックの主催団体のヒアリングなどを行った。チームごとに、JCI メンバーがファシリテーターとなったが、大学生が自らリーダーやその他の役割分担を決めて、プロジェクトを進めた。
- 上記 [1] でパートナー関係になった地域団体や大使館等は、「大学生に学びや成長の機会を与える」という観点に非常に協力的になり、「東京 JC2020 パートナーシップ」プロジェクトにより積極的に参加する意思を持った。

[8] 東京 JC2020 パートナーシップ 報告会

- JCI 東京は、オリンピック会場の 1 つである東京国際フォーラムにおいて、これまでの各プロジェクトの報告会を行った。
- 約 300 人の市民のほか、プレ・「東京 JC2020 パートナーハウス」（上記 [6] ）を行った地域団体の人々、各国の大使館職員等（15 名）、大学教員らが参加した。
- 大学生が市民らに向けて発表を行った。上記 [7] に基づき具体的な提案を 3 チームが行い、あわせて、上記 [4] について 1 チームが報告した。また、JCI 東京メンバーが 3 つのプレ・「東京 JC2020 パートナーハウス」について報告した。
- JCI 東京は、これらの報告会の内容をパンフレットにまとめ、行政、地域団体や大使館等に提案した。

[結果および効果]

- JCI 東京が地域団体や大使館等と協力して行った「協働プロジェクト」（日本人が外国人と交流するだけでなく、一緒にプロジェクトを行う機会）は、すでに行われたもので 8 回を越え、その参加した市民は 15000 人を越える。
- JCI 東京がオリンピックに向けてマッチングした 23 区の地域団体と 23 の国は、オリンピックに向けて協働したイベントを検討している。その 1 つ荒川区では、ニカラグア大使が自ら地域を訪問し、ニカラグアと荒川をミックスした新しい特産品やブランディングを企画し、そこに住む外国人との共生を進めようとしている。
- JCI 東京と大学生が行った「大学生地域ワークショップ」で提案されたプロジェクトが受け入れられ、3 つの地域団体がそのプロジェクトの実施に向けて、大学生と準備を進めた。それらの地域団体には、これまで参加していなかった外国人がイベントに参加するようになっただけでなく、両者の間を仲介し、活性化する存在である大学生もこの地域の活動にかかわるようになった。大学生のグループは、それらの地域では、小さいコミュニティリーダーといえる。
- 1 度、大使館等と協働した国際交流プロジェクトを実施した地域団体は、その後、JCI 東京のかかわりなしに、自ら大使館等と協力、協働し、別の国際交流プロジェクトを実施している。たとえば、上記 [6] でブータンと協働した中央区では、地域団体とブータンとで準備、企画し、「中央区の小学生たちが書いた手紙を地域に住むブータン人の協力を得て、ブータンに住む小学生たちに届ける」というプロジェクトを実施した（JCI 東京は、その企画をサポートしたのみ）。結局、そのプロジェクトは、地域団体の人々がブータン国王に直接手紙や記念品を手渡すことまで行えた。地域団体はさらに日本に住むブータン人達との協力、協働を進め、オリンピックに向けたイベントを考えている。
- これらの活動、このプロジェクトは、全国的な新聞（国内 2 位）にとりあげられ、ローカルテレビに放送された。JCI 東京が作った専用サイトにはのべ 3 万 4000 以上の閲覧があった。日本人と外国人の協働を進める「東京 JC2020 パートナーシップ」プロジェクトは広く

[6] Pre- "Tokyo JC2020 Partner House"

- Based on the ideas of [2] and [4] above, JCI Tokyo will collaborate with three regional groups and the country to carry out a project called "Tokyo JC2020 Partner House" before the Olympics. did.
- About 900 citizens participated in the three houses run by JCI Tokyo.
- With the motivation of the local community to revitalize the region and attract a large number of citizens, we set up a facility to introduce and publicize one country and held a multi-day event (3 regions each in Bhutan , Mauritius, Poland in collaboration with the embassy and others). The people of the country living in Japan, such as the embassy staff, participated in the collaboration with the people of the local community, motivated by the promotion of their own country and products and services for the Olympics.
- People who actually collaborated on this occasion (people in the local community, embassy staff, etc.) talked with each other even after the project, and held multiple different exchange / collaboration events in the area.
- These activities were also announced on the project's dedicated site to convey that "events prepared and planned by Japanese and foreigners together have great appeal and merits."

[7] Tokyo JC2020-Regional Student Area Workshop ②

- 40 students from various universities in Tokyo held workshops and fieldwork during the Olympics to consider a project in which a "regional organization and one foreign country (embassy, etc.)" collaborated (period) 3 months).
- This workshop was also carried out with the cooperation of professors at Sophia University and regional revitalization experts belonging to Deloitte Tohmatsu Venture Support Co., Ltd.
- University students were divided into three teams and conducted hearings with regional organizations, embassies, and other organizing organizations of the Olympic Games. JCI members became facilitators for each team, but the university students decided on their own leadership and other roles and proceeded with the project.
- Regional groups and embassies that became partners in [1] above became very cooperative in terms of "giving university students opportunities for learning and growth," and actively participate in the "Tokyo JC2020 Partnership" project. I was willing to

[8] Tokyo JC2020 Partnership Report Meeting

- JCI Tokyo held a briefing session for each project so far at the Tokyo International Forum, one of the Olympic venues.
- In addition to about 300 citizens, the people of the pre- "Tokyo JC2020 Partner House" ([6] above), the embassy staff of each country (15 people), and university teachers participated.
- University students gave presentations to citizens. Three teams made specific proposals based on [7] above, and one team reported on [4] above. In addition, JCI Tokyo members reported on three pre- "Tokyo JC2020 Partner Houses".
- JCI Tokyo compiled the contents of these briefing sessions into a pamphlet and proposed it to the administration, regional groups, embassies, etc.

[Results and effects]

- The "collaboration project" (an opportunity for Japanese people not only to interact with foreigners but also to work together) that JCI Tokyo collaborated with regional organizations and

市民に知られた。オリンピックを準備する東京都の知事・小池百合子氏は「東京 JC2020 パートナーシップ」プロジェクトをもっと推進してほしいと述べた。

— これらのプロジェクトの結果、JCI 東京は、オリンピックを主催する東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会や東京都オリンピック・パラリンピック準備局と強い信頼関係・パートナー関係を得た。

オリンピックを主催する東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会は、本プロジェクトの成果を踏まえて、オリンピックの公式ファンクションである「オセアニア・ビレッジ」（オセアニア 13 カ国が共同して作るパートナーハウス）について、JCI 東京の協力を得たいと依頼した。組織委員会は、「オセアニア・ビレッジ」に、JCI 東京の提案のように、地域団体や大学生の協力やアイデアを得て、日本人と外国人が協働する機会にしたいと希望した。上記 [7] のワークショップに参加した大学生たちがリーダーとなり、「オセアニア・ビレッジ」実行委員会に参加することとなった（但し、オリンピックは延期された）。これは、世界的イベントにかかわるものとして、JCI 東京のブランディングを高めるとともに、本プロジェクトにかかわった JCI メンバーをモチベートするだけでなく、ヤングリーダーである大学生たちに大きな成長・発展の機会を提供するものである。

また、この取り組みは、今後、地域団体に、地域団体、外国・外国人、大学生との協働したプロジェクトを行う価値を伝えることにもつながる。

【重要なポイント】

◎ JCI 東京は、地域社会の大きな課題、具体的には、日本人と外国人との交流や共生が十分でないことをとりあげた。しかし、JCI 東京は、その課題に正面からぶつかって、たとえば「お互いを理解し合おう」というキャンペーンは行わなかった。

◎ JCI 東京は、東京オリンピックパラリンピック大会が間近に迫っていることを利用して、地域団体がやりたいこと（外国の魅力的な文化などをとり入れた地域の活性化）、大使館などがやりたいこと（自国を PR したい）を組み合わせた。それによって、地域団体、日本人と、大使館等や外国人が、互いにメリットを感じつつ、協働、ともに活動する機会を創り出した。彼らは協働できた、互いに役立ったことを理解し、その後も、JCI 東京のかかわりなしで、自ら積極的に、交流・協働するイベントを継続的に企画、実施するようになった。これまでにない地域団体と国のつながりが多数創出された。

◎ JCI 東京は、「東京 JC2020 パートナーシップ」プロジェクトを行うにあたり、英語でのコミュニケーションが苦手が地域社会の人々だけでなく、大学生も巻き込んだ。大学生は、日本人と外国人の潤滑油となり、そのコミュニケーションを助けた。地域団体や大使館等は、大学生への教育の機会として、積極的にこれに協力した。成果をあげた大学生は、地域のヤングリーダーになりつつある。

◎ JCI 東京は、これらのプロジェクトの成果によって、オリンピックの主催団体である東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会や東京都オリンピックパラリンピック準備局と、強固な関係を構築した。すでにこれらの団体から協力の依頼を受けている。JCI 東京は、オリンピックというインパクトをいかして、地域課題の解決を行っていくとともに、JCI 東京のブランディングを高めていく。

embassies, etc. has already been done. More than 1 times, the number of participating citizens exceeds 15,000.

-The 23 wards of regional groups that JCI Tokyo matched for the Olympic Games and 23 countries are considering an event in collaboration with the Olympic Games. In one of these, in Arakawa Ward, Ambassador of Nicaragua will visit the area himself to plan new special products and branding that mix Nicaragua and Arakawa, and to promote coexistence with foreigners living there.

-The project proposed at the "University Student Regional Workshop" conducted by JCI Tokyo and university students was accepted, and three regional groups proceeded with the university students to prepare for the implementation of the project. Foreigners who have not participated in these local groups are now participating in the event, and university students who are mediating and activating both parties are also involved in the activities of this area. It became so. A group of college students are small community leaders in those areas.

-The regional organization that once carried out the international exchange project in collaboration with the embassies, etc., then cooperated and collaborated with the embassies, etc. to carry out another international exchange project, regardless of JCI Tokyo. There is. For example, in Chuo Ward, which collaborated with Bhutan in [6] above, we prepared and planned it with a local group and Bhutan. "Delivering to elementary school students living in Japan" (JCI Tokyo only supported the project). Eventually, the project could even be handed over to the King of Bhutan with letters and memorabilia directly from the community members. Regional groups are also cooperating with the Bhutanese who live in Japan, and are considering events for the Olympics.

-These activities and this project were picked up by the second largest national newspapers in Japan and broadcast on local TV. The dedicated site created by JCI Tokyo had more than 34,000 views. The "Tokyo JC2020 Partnership" project, which promotes collaboration between Japanese and foreigners, was widely known by the public. Yuriko Koike, Governor of Tokyo preparing for the Olympic Games, said he would like to promote the "Tokyo JC2020 Partnership" project.

-As a result of these projects, JCI Tokyo has gained a strong relationship of trust and partnership with the Tokyo Olympic and Paralympic Games Organizing Committee, which hosts the Olympic Games, and the Tokyo Olympic and Paralympic Preparation Bureau.

Based on the results of this project, the organizing committee of the Tokyo Olympic Paralympic Games, which hosts the Olympic Games, has decided that the official function of the Olympic Games, "Oceania Village" (a partner house jointly created by 13 countries in Oceania) I asked for cooperation. The Organizing Committee hoped that "Oceania Village" would be an opportunity for Japanese and foreigners to collaborate with the cooperation and ideas of local groups and university students, as suggested by JCI Tokyo. The university students who participated in the workshop in [7] above became leaders and participated in the "Oceania Village" executive committee (however, the Olympic Games were postponed). This will not only motivate the JCI members involved in this project as well as enhance the branding of JCI Tokyo as a global event, but also provide a great opportunity for growth and development to the young leaders, university students. Is.

In addition, this initiative will also inform regional groups of the value of conducting projects in collaboration with regional groups, foreign / foreigners, and university students.

[Important point]

◎ JCI Tokyo picked up on major issues in the local community, specifically the lack of interaction and symbiosis between Japanese and foreigners. However, JCI Tokyo did not carry out a campaign to "understand each other," for example, by heading into the issue.

◎ At JCI Tokyo, taking advantage of the impending approach of the Tokyo Olympic and Paralympic Games, what local groups want to do (revitalize the region with attractive foreign cultures), what embassies want to do (I want to publicize my own country). As a result, local groups, Japanese people, embassies, and foreigners have created opportunities to collaborate and work together while feeling their mutual benefits. They understood that they were able to collaborate and that they helped each other, and even after that, they continued to plan and carry out events to actively interact and collaborate without the involvement of JCI Tokyo. Many unprecedented connections between regional groups and the country have been created.

◎ JCI Tokyo involved not only local people but also university students who are not good at communicating in English when conducting the "Tokyo JC2020 Partnership" project. University students became lubricants for Japanese and foreigners and helped them communicate. Local groups and embassies actively cooperated with this as an opportunity to educate university students. The successful college students are becoming local young leaders.

◎ Based on the results of these projects, JCI Tokyo has established a strong relationship with the organizing committees of the Tokyo Olympic Paralympic Games and the Tokyo Metropolitan Olympic Paralympic Preparation Bureau, which are the organizing bodies of the Olympics. We have already received requests for cooperation from these groups. JCI Tokyo will use the impact of the Olympic Games to solve regional issues and enhance JCI Tokyo's branding.

1 目的・財務計画・実施

このプログラムの目的を記述してください。元313単語

① コミュニティおよび市民に対して

- 地域社会から、外国人や異なるバックグラウンドを持つ人々への偏見、人種差別をなくす。日本人と外国人とが共生、共存する地域を創る。
 - 上記の目的のために、地域において、日本人と外国人とが交流を超えて“協働”する機会を作り出す
- 東京オリンピックパラリンピックの開催が近づいていることを最大限に活かして、国際交流の機会をつくること
- 地域社会における活動やプロジェクトに、大学生を参加するよう誘導すること（彼らに社会課題を解決する機会、成長発展の機会を提供すること）
- 国をこえて、グローバルに活躍する人財を地域社会から作り出すこと（大学生が地域社会において、日本人と外国人とが交流、協働するプロジェクトに主体的かつ継続的にかかわること）

② JCIメンバーおよびLOMに対して

- 東京で大きな課題となっている「人種や国籍に基づく偏見や差別」という社会問題に解決する機会をJCIメンバーに提供すること

Objectives, Planning, Finance and Execution

What were the objectives of this program? ※200単語まで

(1) To the community and the public

- Eliminate prejudice and racism against foreigners and people of different backgrounds from the community. To create a region where Japanese and foreigners can coexist and live together.
- In order to achieve the above objectives, we will create opportunities for Japanese and foreigners to collaborate beyond exchanges in the region.
- To make the most of the Tokyo Olympic and Paralympic Games are approaching, and to create opportunities for international exchange.
- Inducing college students to participate in community activities and projects
- To train people from the local community who can play an active role in global affairs, regardless of nationality

(2) To JCI members and LOMs

- To provide JCI members with an opportunity to solve the social problem of prejudice and discrimination based on race and nationality, which has become a major issue in Tokyo.

- グローバルとローカルという2つの視点を同時に持つプロジェクトを経験すること (JCI メンバーは、このプロジェクトを通じて、さまざまな国の大使館や団体の人々とやりとりし、グローバルな視点をもつ。)
- 世界最大のイベント (東京オリンピック・パラリンピック) の主催者とこのプロジェクトを推進することで、市民に対する LOM の認知度を高める

- Through this project, JCI members will interact with people from embassies and organizations in various countries to gain a global perspective.
- To promote this project with the organizers of the world's largest event, Olympic and Paralympic Games, in Tokyo to raise awareness of LOM among the public.

このプログラムが、どのように JCI 行動計画に準じているかを記述してください JCI Plan of Action を参照して、インパクト Impact (影響力) ・モチベート Motivate (意欲) ・インベスト Invest (投資) ・コラボレート Collaborate (協働) ・コネクト Connect (つながり) についてそれぞれ記載してください 元 5 3 9 単語

How does this program align to the JCI Plan of Action?
※200 単語まで

◎Impact

- JCI 東京は、sustainable impact を引き起こすために、次の2点を工夫した。
 - ① 若者の力にフォーカスすること。
 - ② アクティブシティズンフレームワークを素早く実施
 - JCI 東京は、大学生、地域団体、大使館等と、さまざまな企画、テストイベントを短期間に繰り返した。我々は実際に実施し、その検証をして、さらに企画をブラッシュアップすることに成功した

- 数値的なインパクト

- ・「協働プロジェクト」を 8 回実施
- ・参加した市民は 15000 人以上
- ・専用サイトはのべ 3 万 4000 以上の閲覧
- ・100 人以上の大学生がこのプロジェクトに継続的に関与

◎Motivate

- JCI 東京は、オリンピックが間近に迫っていることを、多くの大学生、地域団体の意欲を引き出すために、最大限活用した

◎Invest

- 本プロジェクトには、27 の国の大使館や団体、22 の地域団体や企業などの協力を得た。これらの国との関係づくりを希望したり市民への PR を希望したりする 9 つの企業から 1 万 5000 ドルの資金を得た。

◎Collaborate

- 本プロジェクトを通じて、
 - ・ 9 つの大学
 - ・ 27 の大使館等
 - ・ オリンピックの主催、準備団体 (東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会、東京都オリンピックパラリンピック準備局)
 - ・ 9 つの協賛企業と協働した。

◎Connect

- ヤングリーダーとなる大学生たちを、地域団体につなげることができた。大学生や地域団体は、本プロジェクトで考えたアイデアをオリンピック中に実施するため、引き続き地域団体と関係をもっている。
- 23 の区と 23 の国をつなげた。

予算計画通りにプロジェクトを実行できましたか？
予算上の工夫や、予算の内訳の概算を記述してください

◎Impact

- JCI Tokyo has created the following two points to cause sustainable impact.
- Emphasis on the power/energy of the youth.
 - Speed of the implementation of the Active Citizen Framework to be effective and efficient in various planning

◎Numerical Results

- Eight "Collaborative Projects".
- More than 15,000 citizens participated in the events.
- The dedicated website recoded more than 34,000 views in total.
- More than 100 college students have been continuously involved in the project.

◎Motivate

- JCI Tokyo took full advantage of the impending Olympics to motivate many university students and community organizations.

◎Invest

- We have raised \$ 15,000 of sponsorship from nine companies that want to build strong relationships with these countries and publicize to citizens.

◎Collaboration

- Through this project, 9 universities, more than 100 university students, 23 community groups, Organization of the Olympic Games, preparatory organization (Olympic Paralympic Games Organizing Committee, Olympic Paralympic Preparation Bureau), 9 supporting companies and 27 embassies, etc. worked together

◎Connections

- JCI Tokyo group was able to train the college students who will become young leaders to local organizations.
- We built strong connections among 23 wards in Japan and 23 countries all over the world.

Was the budget an effective guide for the financial management of the project? ※150 単語まで

JCI 東京は、事前に予算を立案し、理事会で審議・可決し、実施後、理事会で決算を承認しています。

JCI Tokyo planned the budget in advance, discussed and passed by the Board of Directors, and after implementation, approved the accounts by the Board of Directors.

このプロジェクトはどのように JCI ミッション・ビジョンを推進しましたか？

ミッションとビジョンに分けて記載

ミッション：より良い変化をもたらす力を青年に与えるために、発展・成長の機会を提供すること

ビジョン：若き能動的市民の主導的なグローバル・ネットワークになること

◎JCI Mission

— 約 100 人の大学生がチームにわかれ、主体的に自分たちでアイデアや政策立案をする機会を得た。JCI 東京は、これらの機会や、大学生らが地域団体や大使館等にヒアリングするなどのフィールドワークの機会を提供した。大学生は、これらによって成長発展の機会を得ただけで無く、地域団体とつながり、引き続き、地域コミュニティでヤングリーダーとして活動するようになった。

◎JCI Vision

— JCI 東京が主導したこのプロジェクトによって、23 の地域と 23 の国がつながりをもった。このつながりは、さらにオリンピックに向けて発展する。JCI 東京は、世界に目を向けることが少ない地域団体、市民に、グローバルな視点を提供し、またそのネットワークを作った。

How does this project advance the JCI Mission and Vision?

※200 単語まで

【参考】

JCI Mission : To provide development opportunities that empower young people to create positive change

JCI Vision : To be the leading global network of young active citizens

Mission

JCI Tokyo provided these opportunities, as well as fieldwork opportunities for the students, including interviews with local organizations and embassies, to develop their own ideas and policies. Not only did these give college students the opportunity for growth and development, but they also connected with local organizations and continued to be active as Young Leaders in the local community.

Vision

The project, led by JCI Tokyo, has brought 23 regions and 23 countries together. JCI Tokyo has provided a global perspective and created a network of local organizations and citizens who may not have had the opportunity to look around the world.

2 世界平和のための協力

このプロジェクトは、あなたのコミュニティでどのように平和の輪を広げましたか？

— JCI 東京が地域団体や大使館等と協力して行った「協働プロジェクト」（日本人が外国人と交流するだけでなく、一緒にプロジェクトを行う機会）は、すでに行われたもので 8 回を越え、その参加した市民は 15000 人を越える。

この「協働」の経験をした市民は、国籍や民族のかきねを越えて、すべての世界市民と交流・協働できる市民となった。

— JCI 東京がマッチングした 23 区の地域団体と 23 の国は、オリンピックに向けて協働したイベントを検討している。その 1 つ荒川区では、ニカラグア大使が自ら地域を訪問し、ニカラグアと荒川をミックスした新しい特産品やブランディングを企画し、そこに住む外国人との共生を進めようとしている。中央区では、地域団体とブータンとで準備、企画し、「中央区の小学生たちが書いた手紙を地域に住むブータン人の協力を得て、ブータンに住む小学生たちに届ける」というプロジェクトをすでに実施し、さらに地域団体はさらに日本に住むブータン人達との協力、協働を進め、オリンピックに向けたイベントを考えている。

— JCI 東京は、地域団体がやりたいこと（外国の魅力的な文化などをとり入れた地域の活性化）、大使館などがやりたいこと（自国を PR したい）を組み合わせた。それによって、地域団体、日本人、大使館等や外国人が、互いにメリットを感じつつ、協働、ともに活動する機会を創り出した。彼らは協働できた、互いに役立つことを理解し、その後も、JCI 東京のかかわりなしで、自ら積極的に、交流・協働するイベントを継続的に企画、実施するようになった。これまでにない地域団体と国のつながりが多数創出された。

Cooperation for the Sake of World Peace

How did this project extend the presence of peace in your community? ※300 単語まで

- JCI Tokyo's "Collaborative Project" (an opportunity for Japanese people to not only interact with foreigners, but also to work together on projects) has already been conducted more than eight times, with more than 15,000 citizens taking part.

Citizens who have experienced this "collaboration" have become citizens who are able to interact and collaborate with all citizens of the world, regardless of nationality or ethnicity.

Local organizations in the 23 wards and 23 countries matched by JCI Tokyo are considering collaborative events in the run-up to the Olympics. In Arakawa Ward, the Nicaraguan ambassador has personally visited the area to plan new products and branding that mix Nicaragua and Arakawa, and to promote coexistence with the foreign residents of the area. In Chuo City, community organizations and Bhutan have already prepared and planned a project in which letters written by schoolchildren in Chuo City are delivered to schoolchildren in Bhutan with the cooperation of Bhutanese people living in the community, and community organizations are further promoting cooperation and collaboration with Bhutanese people living in Japan to plan events for the Olympics.

- JCI Tokyo combines what local organizations want to do (revitalize the region with attractive foreign cultures) and what embassies and other organizations want to do (promote their own countries). This has created opportunities for local organizations, Japanese people, embassies, and foreigners to work together in a mutually beneficial manner. Realizing that

平和を促進するために、「協力すること」をどのように用いましたか？

— 東京がかかえる課題、つまり国籍や民族による偏見や差別などを解消するため、日本人と外国人が交流をこえて「協働」することがもっとも重要であるというコンセプトのもとプロジェクトは行われた。また本プロジェクトによってできた地域団体と国のつながりによって、JCI 東京がかかわらないところでも、この「協働」が継続的に生まれるようになった。

— JCI 東京は、日本人と外国人の「協働」を作り出すのに、英語でのコミュニケーションが苦手が地域社会の人々だけでなく、大学生の「協力」を得た。大学生は、日本人と外国人の潤滑油となり、そのコミュニケーションを助けた。地域団体や大使館等は、大学生への教育の機会として、積極的にこれに協力した。

3 地域社会への影響

意図したコミュニティの影響は何でしたか？

- 地域社会から、外国人や異なるバックグラウンドを持つ人々への偏見、人種差別をなくし、日本人と外国人とが共生、共存する地域を創り出すこと
 - 上記の目的のために、地域において、日本人と外国人とが交流、「協働」するプロジェクト（それによって相互理解が深めるだけでなく、互いに協力するメリットが実感できるよう工夫されていること）を実施すること
- 地域社会における活動やプロジェクト（最初は、上記のとおり、外国人と日本人とが交流、協働するプロジェクト）に、大学生を参加するよう誘導すること（彼らに社会課題を解決する機会、成長発展の機会を提供すること）
- 国をこえて、グローバルに活躍する人材を地域社会から作り出すこと（大学生が地域社会において、日本人と外国人とが交流、協働するプロジェクトに主体的にかかわること）

このプロジェクトが与えた地域社会への影響を記述してください。

they were able to work together and that they were mutually beneficial, they continued to actively plan and implement events to interact and collaborate on their own, without JCI Tokyo's involvement. A number of unprecedented regional and national links have been created.

How was cooperation used to promote peace? ※200 単語まで

In order to eliminate the issues faced by Tokyo, such as prejudice and discrimination based on different nationality and ethnicity, this project is carried out under the concept that it is most important for Japanese people and foreigners to collaborate over communication exchanges. To collaborate is to talk many different topics, ideas that are essential in the project of JCI Tokyo. In addition, this was also based on the connection between the regional groups throughout the country. These regional groups created this project and they have allowed this “collaboration” to continue to occur even when JCI Tokyo was not yet involved.

JCI Tokyo received supports of university students, as well as members of the local community who have difficulty communicating in English, to create collaboration between Japanese and foreigners. The university students became the bridge between Japanese and foreigners and helped them to communicate with each other. Community organizations and embassies actively cooperated with the program as an educational opportunity for university students.

Community Impact

What was the intended community impact? ※200 単語まで

- To eliminate prejudice and racism against foreigners and people of different backgrounds from the local community, and to create a community where Japanese and foreigners can coexist in harmony.
- In order to achieve the above objectives, we implemented projects in the region that allow Japanese and foreigners to interact and collaborate (i.e., not only to deepen mutual understanding, but also to realize the benefits of cooperating with each other).
- To induce university students to participate in community activities and projects (initially, as mentioned above, projects in which foreigners and Japanese interact and work together) to provide them with opportunities to solve social problems and to grow and develop
- To create human resources from the local community who can play an active role in global affairs across national boundaries (university students should be proactively involved in projects in which Japanese and foreigners interact and collaborate in the local community).

Describe the actual community impact produced by this project. ※300 単語まで

- ◎ 23 の区と 23 の国とでパートナーシップが生まれた。JCI 東京が地域団体や大使館等と協力して行った「協働プロジェクト」（日本人が外国人と交流するだけでなく、一緒にプロジェクトを行う機会）は、すでに行われたもので 8 回を越え、その参加した市民は 15000 人を越えた。
- ◎ それだけでなく、つながりができた地域団体と大使館等は、自ら主体的に、「協働」する企画、イベントを実施している。これらによって、多くの市民は、外国人への偏見や差別を解消し、「協働」するパートナーと認識している（また今後もそれを認識する機会が継続する）。
- ◎ 多くの大学生が本プロジェクトによって地域コミュニティに参加するようになった。本プロジェクトで提案された 3 つのアイデアを実施するため、大学生が地域団体や JCI 東京と準備、検討している。

The intended community impact was having 23 partnerships between 23 wards and 23 countries nationwide. JCI Tokyo collaborated with local organizations and embassies on the “Collaboration Project” (an opportunity for the Japanese not only to interact with foreigners but also to work as a team), which has already been held 8 times. The number of citizens who participated in successfully exceeded 15,000.

Not only that, in fact the local groups and embassies continue to voluntarily host similar projects and events following our project. With this, many citizens who knew about JCI Tokyo and what they work for, and it will continue to be recognized nationwide.

Many university students have joined the local community through this project. These students are preparing and studying with local groups and JCI Tokyo to make the bigger ideas proposed in this project.

4 LOM への影響

このプロジェクトの運営によって、LOM が得たことを記述してください。

- 東京で大きな課題となっている「人種や国籍に基づく偏見や差別」という社会問題に解決する機会を JCI メンバーに提供し、メンバーは成長・発展した。
JCI メンバーは、このプロジェクトを通じて、さまざまな国の大使館や団体の人々とやりとりし、グローバルな視点をもつ。JCI メンバーは、地域社会に、さまざまな国の人達をつなぎ、そして、地域に住む人々にこれらの人と協働するよう働きかけた。
- 本プログラムでは、約 100 人、9 つの大学の学生に成長発展の機会を提供した。JCI 東京は、これらの大学と強固な関係を築き、今後行う様々なプロジェクトでも協働、協力が得られる。
- JCI 東京は、これらのプロジェクトの成果によって、オリンピックの主催団体である東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会や東京都オリンピックパラリンピック準備局と、強固な関係を構築した。すでにこれらの団体から協力の依頼を受けている。

Impact on Local Organization

How did the Local Organization benefit from running this project? ※200 単語まで

JCI members grew and developed by providing them with the opportunity to solve the social problem of prejudice and discrimination based on race and nationality, which has become a major issue in Tokyo. Through this project, JCI members interacted with people from embassies and organizations in different countries, giving them a global perspective; JCI members connected the community with people from different countries and encouraged people to work with them.

The program provided opportunities for growth and development to about 100 students from 9 universities. JCI Tokyo has established strong relationships with these universities and will be able to collaborate and cooperate in various future projects. As well as they can team up again or they can use their connections which makes the project more effective and efficient.

JCI Tokyo has built a strong relationship with the organizing committees of the Tokyo Olympic and Paralympic Games and the Tokyo Metropolitan Olympic and Paralympic Preparation Bureaus, which are the host organizations of the Olympic Games, based on the results of these projects. We have already received requests for cooperation from these groups.

このプログラムによって、どのように JCI ミッションを推進しましたか？

ミッション：より良い変化をもたらす力を青年に与えるために、発展・成長の機会を提供すること

◎ JCI Mission

— 約 100 人の大学生がチームにわかれ、主体的に自分たちでアイデアや政策立案をする機会を得た。JCI 東京は、これらの機会や、大学生らが地域団体や大使館等にヒアリングするなどのフィールドワークの機会を提供した。大学生は、これらによって成長発展の機会を得ただけで無く、地域団体とつながり、引き続き、地域コミュニティでヤングリーダーとして活動するようになった。

How did the program advance the JCI Mission? ※200 単語まで

【参考】JCI Mission : To provide development opportunities that empower young people to create positive change

About 100 university students participating in the program create a set of groups and teams, and all of them got the opportunities to come up with ideas and potential policies. JCI Tokyo provides opportunities for the students to handle the fieldwork and interview the local groups and embassies.

They also meet the JCI mission because these young leaders will create positive changes in the world using their experiences during their collaboration in these projects. This program gives the idea of how to be a future leader also they create a peaceful

environment wherein all nationalities can be part of these wonderful projects provided by JCI Tokyo.

Also, they break the language barrier and instead they motivate themselves to study and understand different cultures that they can use as their advantages to them as a good leader.

5 プログラムの長期的な影響

Long-term Impact of the program

このプロジェクトによって得られると予測される長期的な影響を記述してください。

What is the expected long-term impact of this project?
※200 単語まで

◎ 多くの地域で、さまざまな日本人と外国人が「協働」したイベントやプロジェクトが実施され、その経験やアイデアが広く社会にも伝わっていく（実際に、すでにいくつかのプロジェクトが地域団体と大使館等によって実施されたり検討されたりしている）。

◎ 一度、この「協働」の機会を経験した市民は、国籍や民族にかかわらず、さまざまな人と交流、協働できる。

◎ 日本人と外国人とが「協働」するプロジェクトにおいて、その仲介あるいは潤滑油となる大学生が、地域コミュニティにさらに継続して参加するようになる。これによって、地域に力が加わり、また大学生は、リーダーとして成長・発展する機会を得る。

Some projects have already been organized in many areas by their own local groups following our project. It is being implemented or considered by the embassies. In these projects, various Japanese people and foreign people collaborate with different events and projects. All of the participant's experiences and their own ideas are widely communicated to society. It was widely noticed that citizens who once experienced this collaboration opportunity can interact and collaborate with kinds of people regardless of their nationality and /or ethnicity.

A long-term impact can be expected in a project where “Japanese” and “non-Japanese” collaborate with each other. University students who act as intermediaries or active bridges will continue to take part in the local community events and projects. This will add power to the region's social strength and give the university students the opportunity to grow and be developed as future leaders. Helping to build future leaders of the local community and even the country takes a very long process and is being transferred from generation to generation. That is why this project of JCI Tokyo is such a great tool for continuous implementations, aiming for long-term social impact.

このプロジェクトの改善点・改善策を記述してください。
※マイナスな表現はしないでください。前向きな改善点を記載しましょう

What changes would you make to improve the results of this project? ※300 単語まで

◎ 本プロジェクトでは、23 の区と 23 の国にパートナーシップを作ることができたが、そのパートナーシップをもとにさまざまなプロジェクトを行うためには、そこに JCI メンバーだけでなく、大学生が多く参加することが必要であった。

しかし、本プロジェクトでは、当初、1 つの大学とのパートナーシップを組み、30 名程度の大学生の参加しかえられなかった。そのため、23 の区すべてに大学生をチームとして参加させることができなかった。

幅広い大学に声をかけ、多くの大学生の参加を得れば、さらに大きなインパクトを起こすことができた。

We should be able to get the interest and the participation of many university students. We can also improve the result of the project if we will be able to create strong partnerships with schools, organizations, and groups throughout the 23 wards in Tokyo. This way we can come out with a great impact. We can partner with at least 23 countries worldwide. We can let them take part in our projects and let them join in any of our events and programs to build stronger ties and show the local community the impact of collaboration. But to carry out various projects based on the partnership, everyone, not only JCI members but also all participating countries, wards, universities and university students should take part in all of JCI Tokyo's projects, events, and programs. Active participation from everyone is such a necessity and should be given an effort and perseverance.

At present, we initially formed a partnership with only one university, and only about 30 university students could participate. Therefore, with the low number of participants from the university students and the people it is not possible to have all 23 wards in Tokyo to join and work as a team. But with different approaches that we may be able to come up with, we can approach a larger pool of university students. If we can make that such a partnership with the

universities in the 23 wards in Tokyo we will be able to make an even greater impact.

「目的・財務計画・実施」項目に添付する画像を下部に貼付してください

ANALYZE

our community needs and chance

- Rapid increase in the number of foreigners living in Tokyo (Vietnam, Cambodia, Myanmar, Mongolia, Nepal, Sri Lanka, etc.)
- The "82%" of Resident foreigners : No daily interaction with the Japanese.
- The "49%" of Resident foreigners : Prejudice from the Japanese is discrimination



No daily interaction with the Japanese. 82%



Prejudice from the Japanese is discrimination 49%

Objectives

"Peace, Prosperity, and Sustainability"

- We are proactively making efforts to formulate a program that helps the locals and foreigners to interact with one another.
- Eliminating Racism and Creating fundamental values such as democracy, freedom and human rights.
- Encourage college students to participate in community activities and projects
- By promoting this project with the organizers of the world's largest event (Tokyo Olympics), the impact on the public and awareness of the LOM will be increased.



Japanese and foreigners go beyond exchanges
Create opportunities and mechanisms to "collaborate"
Eliminate discrimination and prejudice



ACTION

東京JC
2020
パートナーシップ



Creating "partnerships" between 23 local organizations and embassies of 23 countries to develop previously unheard of exchange and collaboration projects.



By creating a mechanism for university students and international students to be proactively involved in these "partnerships," we will be able to accelerate a continuous relationship.



IMPACT

東京JC
2020
パートナーシップ

Nine universities, more than 100 college students. Join the project and become a local young leader.



Olympic organizing body in collaboration with



15,000 in funding from nine or more companies.

More than 34,000 visitors to the project site

The "collaboration project" 8 times and the number of participating citizens exceeds 15,000.



「世界平和のための協力」項目に添付する画像を下部に貼付してください

23 partnerships for Peace

- JCI Tokyo matched the regional groups in the 23 wards with 23 countries.
- The 23 wards of regional groups that JCI Tokyo matched for the Olympic Games and 23 countries are considering an event in collaboration with the Olympic Games.



- List of Countries that formed the partnership (in no particular order)
- Hungary
 - Federal Democratic Republic of Nepal
 - Pakistan
 - Sri Lanka Democratic Socialist Republic
 - Republic of South Africa
 - Switzerland
 - People's Republic of China
 - Republic of Maldives
 - Poland
 - Lithuania
 - Republic of Malawi
 - Republic of Nicaragua
 - The Federal Republic of Germany
 - Republic of Benin
 - Madagascar
 - Northern Macedonia
 - Republic of Moldova
 - Mauritania
 - Philippines
 - Serbia
 - Kingdom of bhutan
 - Maracco Kingdo
 - Brunei Darussalam
 - East Timor Democratic Republic
 - Republic of Togo

PEACE in our community

- Local organizations have taken advantage of the foreign partnerships created through JCI Tokyo's projects to implement their own exchange and collaboration projects with foreign nationals without JCI Tokyo's involvement..
- These projects were foreigners and Japanese interact and collaborate which are also mentioned above give opportunities for them to be the key to solve social issues, social growth and social function



東京JC
2020
パートナーシップ

Cooperation for peace

● To collaborate is to talk many different topics, ideas that are essential in the project of JCI Tokyo. In addition, this was also based on the connection between the regional groups throughout the country. These regional groups created this project and they have allowed this "collaboration" to continue to occur even when JCI Tokyo was not yet involved.



JCI Junior Chamber International Tokyo
公益社団法人 東京青年会議所

- 9 universities, more than 100 university Students
- Organization of the Olympic Games, preparatory organization
- 9 supporting companies and 27 embassies, etc. Come up with this project.



「地域社会への影響」項目に添付する画像を下部に貼付してください

Opportunity

for the Japanese not only to interact with foreigners but also to work as a team

● Until then, citizens had little interaction, let alone working with foreigners.

We were offered the opportunity for citizens to work together with foreigners to revitalize their area.

● University students (more than 100 students) were involved in the area for the first time.

University students considered many ideas for raising the community, including Japanese and foreigners living in the area.



Sustainable effect

Citizens, Foreigners and voluntarily interact and collaborate without involvement of JCI Tokyo with university students

● The regional organization that once carried out the international exchange project in collaboration with the embassies, etc., then cooperated and collaborated with the embassies, etc. to carry out another international exchange project, regardless of JCI Tokyo.



「LOM への影響」項目に添付する画像を下部に貼付してください

JCI Branding

- JCI Tokyo has built a strong relationship with the organizing committees of the Tokyo Olympic and Paralympic Games and the Tokyo Metropolitan Olympic and Paralympic Preparation Bureaus, which are the host organizations of the Olympic Games, based on the results of these projects.
- We have already received requests for cooperation from these groups.
- JCI Tokyo will use the impact of the Olympic Games to solve regional issues and enhance JCI Tokyo's branding.



-The Chef Demission Seminar was held as an official event of the Tokyo Olympics Paralympics. This seminar is an official briefing held by the Olympic host organization for NOCs and embassies in all participating countries.
-At this seminar, the initiatives of the "Tokyo JC2020 Partnership" were introduced to each country and publicized, and models and posters of four regional groups and national partner houses made by university students were also displayed.

Long-term partnership to create young leaders

- JCI Tokyo involved not only local people but also university students who are not good at communicating in English when conducting the "Tokyo JC2020 Partnership" project. The successful college students are becoming local young leaders.
- Through this project, 9 universities, more than 100 university students come up with this project.
- JCI Tokyo has established strong relationships with these universities and will be able to collaborate and cooperate in various future projects. As well as they can team up again or they can use their connections which makes the project more effective and efficient.



List of Universities
that formed the partnership
(in no particular order)



University of Tokyo
Sophia University
Keio University
Meiji University
Nihon University
Toyo University
Ritsumeikan University
Showa Women's University
Hosei University

Cooperation for peace

● To collaborate is to talk many different topics, ideas that are essential in the project of JCI Tokyo. In addition, this was also based on the connection between the regional groups throughout the country. These regional groups created this project and they have allowed this "collaboration" to continue to occur even when JCI Tokyo was not yet involved.



JCI Junior Chamber International Tokyo
公益社団法人 東京青年会議所

- 9 universities, more than 100 university Students
- Organization of the Olympic Games, preparatory organization
- 9 supporting companies and 27 embassies, etc. Come up with this project.



「プログラムの長期的な影響」項目に添付する画像を下部に貼付してください

Long-term Impact

- some projects have already been organized in many areas by their own local groups. It is being implemented or considered by the embassies. In these projects, various Japanese people and foreign people "collaborate" with different events and projects.
- All of the participant's experiences and their own ideas are widely communicated to society and alike. It was widely noticed that citizens who once experienced this "collaboration" opportunity can interact and collaborate with kinds of people regardless of their nationality and /or ethnicity. A long-term impact can be expected in a project where "Japanese" and "non-Japanese" collaborate with each other.



Long-term partnership to create young leaders

- JCI Tokyo involved not only local people but also university students who are not good at communicating in English when conducting the "Tokyo JC2020 Partnership" project. The successful college students are becoming local young leaders.
- Through this project, 9 universities, more than 100 university students come up with this project.
- JCI Tokyo has established strong relationships with these universities and will be able to collaborate and cooperate in various future projects. As well as they can team up again or they can use their connections which makes the project more effective and efficient.



--	--